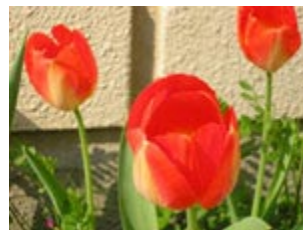


KRC WEB REPORT

徒然想

この春、弊社にも3人の新入社員が入ってきました。ようやく緊張も少し解け始め、社会人1年生としての本格的なスタートを切る5月。本社社屋の花壇には、それを祝福するかのようにチューリップが光を浴びて綺麗に咲いています。5月病もあるかもしれませんが、やがては皆様のお役に立てる素晴らしい技術者に育ってほしいと思っております。弊社としても、より一層皆様から信頼される会社として邁進していきたいと思っております。今後とも、どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



TECHNICAL TOPICS 今月の技術情報

棒形スキャナ(SS-3)がNETIS登録!!

NETIS登録番号 QS-110038-A

小径孔を利用したコンクリート構造物の内部検査法

これまで何度かご紹介してきました「微破壊によるコンクリート内部調査技術」である棒形スキャナ(SS-3)の実績が評価され、この度NETISに登録されました。

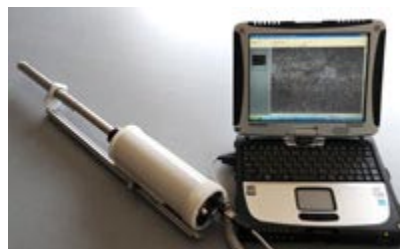
棒形スキャナは、先端にイメージセンサ(CIS)が装備されており、小径孔(約φ25mm)にセンサ部を挿入し回転させる事で孔内側面をスキャンするものです。

収録される画像は、SDカード、または直接パソコンに取り込む事ができるため、その場でコンクリートの内部状況を確認できます。また、600dpiの高解像度となっており約0.04mmの極めて微細なひび割れも測定する事が可能です。

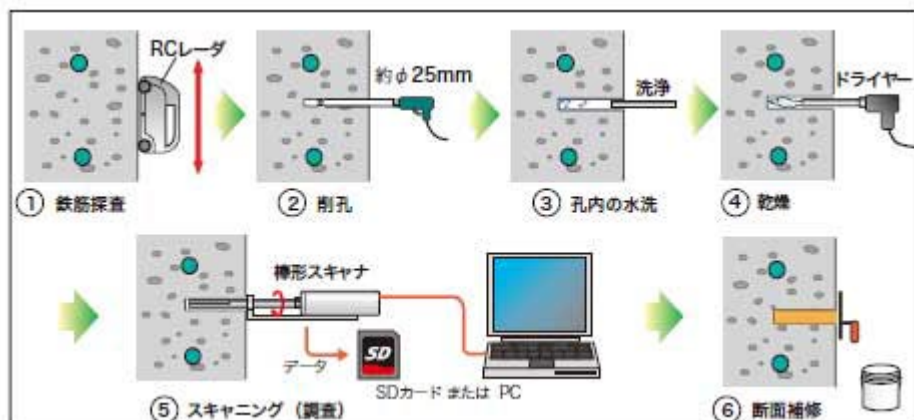
棒形スキャナの最大の特徴は、CCDカメラとは異なり、正射画像(オルソ画像)として画像を収録できる事です。そのため、下記事例のように画像の処理も容易に行なえるようになりました。

これまで、橋梁の床版や橋脚の調査をはじめ、港湾構造物、河川構造物などの調査に使用されてきた実績があります。羽田空港D滑走路のコンクリート間詰部の点検にも、この技術を応用した専用器が使用されています。

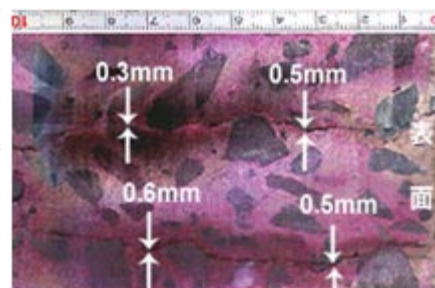
棒形スキャナ(SS-3)による調査依頼はもちろん、機器の販売も行っていますのでお気軽にお問い合わせ下さい。



棒形スキャナと現場調査用PC



調査手順



事例: 坑内展開画像
ひび割れ幅、深さ、中性化深さ

※本検査法は、伊藤幸広准教授(佐賀大学大学院工学系研究科)により開発されました。(特許取得)

※平成20年度ひろしま産業創生補助金を受けています。

詳細はぜひこちらをご覧ください。

http://www.krcnet.co.jp/tech/tech_SS01.html

(株)計測リサーチコンサルタントへのお問い合わせ先: krc@krcnet.co.jp HP: <http://www.krcnet.co.jp/contact/contact.htm>